

大阪府岸和田市

港湾エリアにおける持続可能なまちづくり (岸和田港まつりの企画・運営)



【地域の基礎データ】

人口：194,911 人（平成 27 年 10 月 1 日現在）

高齢化率：25.8%（平成 27 年 10 月 1 日現在）

産業：繊維業、製造業、農業 など

【活動の基本情報】

参加学生数：8 名（1 回生：5 名、2 回生：3 名）

活動期間：令和 3 年 5 月～

担当教員：竹林 明

1. 活動実施の経緯

岸和田市の臨海部は平成 31 年 4 月に「みなとオアシス岸和田」の登録を受け、さらなる活性化を目指している。一方、昭和 28 年から続く「岸和田港まつり」が岸和田市の夏の風物詩となっており、持続可能なイベントとして継承していくことを目標としている。これらを達成するためには、「みなとオアシス岸和田」構



成施設の運営者で組織された「みなとオアシス岸和田運営協議会」や、その他学生・地域の若年層の方々等とも連携した新たな取り組み、特に新型コロナ禍における新たな形式での実施方法を共に検討していく必要だ。そこで、和歌山大学生が、岸和田港まつりの活動サポートを行い、岸和田港まつりの企画運営を通じた持続可能なまちづくりを担うこととなった。

こういった経緯を踏まえ、今年度立てた目標が以下のとおりである。

- ◇ コロナ禍に対応した港まつりの開催
- ◇ Sea 級グルメの開発による「みなとオアシス岸和田」の知名度向上
- ◇ 地域課題を実地で体験し、外で学ぶことの意義を感じる
- ◇ 各種団体や行政との調整事項などを通じて、チームとして活動することの意義や課題について気づきを得る

2. 活動の内容

今年度は主に4つの活動を行った。

・岸和田港振興協会70周年、市制100周年記念事業に向けた企画考案

LIPの活動が始まって間もなく、新型コロナウイルスの影響により岸和田港まつりの開催が中止となった。そのため、代替の活動として、来年度開催される予定である岸和田港振興協会70周年、市制100周年記念事業に向けた企画考案を行った。

また、来年度新型コロナウイルスがどれくらい影響するのかわからないため、インターネットでの調べ学習を参考に、コロナ禍の場合とコロナが収束した場合の2パターンを考案した。

企画案一例

- コロナ禍の場合
周年記念動画の作成、有名人とのオンラインでのコラボ 等
- コロナが収束した場合
有名人とのコラボイベント、岸和田市の歴史がテーマのパレード開催 等

この企画案を基に、来年度に向けた話し合いを岸和田市と共に行う予定であったが、岸和田市とのコミュニケーション不足やお互いの空いている日程が合わないことを理由に、行えなかった。

来年度は、話し合いの場を設け、周年記念事業における企画運営を行いたい。

・Instagramを用いた宣伝活動

「みなとオアシス岸和田」のPR、知名度向上を図るためのコンテンツとしてInstagramのアカウントを開設した。また、開設に当たり、岸和田市職員の立ち合いのもと現地調査を実施し、「みなとオアシス岸和田」の魅力と課題を再認識した。

アカウント名「**和歌山大学 岸和田港湾 LIP**」

ターゲット：和歌山大学生、関西在住の人

私たちの身近な人からフォロワーを増やすことが、将来的にアカウントを拡大させるための近い方法であると考え、ターゲットの1つとして和歌山大学生を挙げた。また、投稿内容を見て、岸和田市に出向きやすい人である関西在住の人もターゲットに入れた。

目標：フォロワー数 200 人

Instagram を用いて岸和田市の魅力を伝えるためには、まず投稿をより多くの人に見てもらい、かつ投稿内容に良い評価を貰うことが重要なのではないかと考えた。そのため、他の大学生団体が運営する Instagram アカウントを参考にフォロワー100人、いいねを毎回50人以上貰うことを当初の目的とした。しかし、フォロワー数やいいね数の伸び悩んだこと、Instagram を利用する人(特に若者)はいいねをせず投稿を流し見するのではないかという意見が出たことから、フォロワー数のフォーカスを当て、フォロワー200人という新たな目標を立てた。



この活動における成果は以下のとおりである。

✓ 目標であるフォロワー数 200 人を達成

運営側からフォローを積極的に行ったことで、目標数を大幅に超える 553 人 (2022/02/11 時点)からフォローして頂いた。

✓ 関西在住の人からの認知度向上

関西に関連したハッシュタグを多くつけることで、それに反応した人からフォローして頂いた。

✓ 若者からの認知度向上

アカウントを把握しやすい和歌山大学生をフォローしたことで、半数以上の人からフォローを返してくださり、また、いいねを頂いた。

✓ 学生が「みなとオアシス岸和田」を中心に岸和田市についての知識を得る

学生一人一人が投稿内容を考え、発信したことで、岸和田市についての知識を得ることが出来た。

一方、課題として以下の点が挙げられる。

✓ **投稿数の少なさ**

①課外活動に制限があったことで現地調査に行けず、投稿する内容に思い悩んだこと、②引用をする等私たちが撮影した以外のものを投稿するという案が出たが、他活動との両立が出来ず、投稿まで結びつかなかったこと、を理由に1年間で20投稿しかできなかった。また、投稿数に関する目標を立てていなかった。

✓ **フォロワー数の増やし方**

アカウント当初、ハッシュタグを活用してフォロワー数を獲得することを試みたが、伸び悩んだ。その後、学生側がフォローを積極的に行うことで目標を達成することが出来たものの、来年度以降のことを考慮すると、新たなフォロワー数の増やし方を考え直さなければならない。

これらの反省を踏まえ、

- 投稿数やフォロワー数の新たな目標設定
- 現地調査に行けない場合の投稿内容の見直し

を来年度以降に行い、Instagramでの発信を続けていく予定である。

・ **Sea 級グルメの開発**

「みなとオアシス岸和田」及び岸和田漁港の知名度向上・魅力発信を目的とし、国土交通省より岸和田市エリアが登録を受けている「みなとオアシス」を活用した Sea 級グルメの開発を行った。考案から販売まで行うことを視野に入れているため、ガントチャートを作成し、今年度どこまで進めておけばよいのかを明確化した。

ターゲット：10代、20代の若者

Sea 級グルメに学生ならではの視点を取り入れてはどうか、これからの岸和田市の未来を担う若者により魅力を知っていただきたいという意見が出たため、若者をターゲットに設定した。

目標：Sea 級グルメの知識を増やし、商品決定まで行う。

商品開発のプロセスを理解する。

Sea 級グルメについて得た知識を発信し、岸和田漁港の認知度向上・愛着構築を図る
来年度に行われるイベントでの販売を最終的な目標に設定した。そのうえで、今年度報告会までのやるべきことをスケジュールリングし、上記の3点に決めた。

今年度のスケジュール：

	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
Sea 級グルメ考案	→ ① →		② →				
漁協との打ち合わせ		★		★			
案 絞り込み				③ →			
試作						④ →	

①Sea 級グルメ考案

- ・大阪湾で獲れる水産物について調べ学習
 - ・Instagram 個人アカウント、岸和田港湾 LIP アカウントでのアンケート調査
 - ・マルハニチロが行ったアンケート結果の分析
- を基に、Sea 級グルメで用いる水産物の案を出した。



②Sea 級グルメ考案(2 回目)

- ・岸和田漁港で水揚げされる水産物
- ・岸和田漁港として推していきたいのは何か
- ・それぞれの水産物の良い加工方法

等といったことを漁協との打ち合わせを通して学び、これを基に具体的な Sea 級グルメ考案を行った。

③案 絞り込み

考案したものの中から、レシピ、食べやすさといった観点で案を絞り込んだ。

④試作

新型コロナウイルスの影響により、日程が確定できていないが、3 月以降に岸和田市の「きんちゃく屋」で絞り込んだ案の施策を行う予定である。

また、来年度に考案した Sea 級グルメの販売を行いたい。

・岸和田 TV MODE 出演



1月20日に、岸和田 TV MODE にメンバー3人が出演を行い、本 LIP の目的や活動内容について発信を行った。

岸和田市産業政策課の方や、岸和田市長とも共演させて頂き、学生にとって良い機会になったのではないかと考える。

これら4つの活動を通じ、今年度の成果として挙げられるのは以下の4点である。

- 若者への岸和田市の認知度 UP に貢献
- 行政や漁協と活動を行ったことによるチームの意義の実感
- Sea 級グルメの発案まで活動を進める
- ガントチャートを用いたことによる活動方針の明確化

一方、今年度の課題として以下の3点が挙げられる。

- 活動内容に見合った役割分担や予定管理が出来ていない
- 一つひとつの活動が中途半端だった
- 地域課題の発見・解決など学生側からの提案が出来なかった

3. 活動を通じて

新型コロナウイルスの影響により活動に制限はあったものの、地域と関わるのが初めての経験である1回生だけでなく、昨年度思うような活動が出来ずにいた2回生にとっても、岸和田港湾 LIP での活動は、学生が岸和田港湾エリアについて学び、地域と関わる良い機会となった。また、学生間だけでなく行政や漁協といった地域の方々と連携を取って活動を行うことにより、チームの意義を感じる事が出来た。

来年度以降も岸和田市との関係を続けるとともに、地域課題について自発的に取り組んで

いきたい。

以下、参加学生の感想である。(一部抜粋)

この LIP に参加したことで岸和田市の魅力や課題に気づくことが出来た。さらに岸和田港湾エリアの様子を見直すいい機会になったと思う。

初めて行政の方と関わらせて頂き、最初は何をしようか戸惑う部分があった。しかし、リーダーとして情報共有や提案など、働きかけることを意識して活動することが出来た。

観光振興に携われる貴重な機会の中で、岸和田での現地調査を通して課題の発見や魅力創出に取り組めたことはとてもいい経験となった。同時に、ただの観光客ではない支店の必要性を強く感じる事が出来た。

この LIP に参加して、これまで知らなかった岸和田市についての知識を得たことや、どのように自分たちの行動が目標達成に繋がるのか、考えながら活動出来て非常に良い経験となった。

この LIP で自分の中で初めて地域と深くかかわることが出来た。地域を盛り上げる工夫などを、市の方から直接聞くことが出来、貴重な機会だと思った。

LIP の活動を通じて、様々な知識と経験を積むことが出来、自分自身にとって成長できる機会となった。

コロナ禍で活動内容に変更があったが、岸和田市の地域課題について理解し、行政・漁協・学生がチームとなって活動に取り組めたことに意義を感じた。

4. 成果物（ポスター）

和歌山大学 観光学部

岸和田港湾LIP

2021年度活動報告

岸和田港湾LIPでは、大阪府の岸和田市さんと共に、コロナ禍における新たな形での「岸和田港まつり」の企画・運営を予定していましたが、しかし昨今の新型コロナウイルスの影響により、「岸和田港まつり」の開催が中止となり、今年度は、国土交通省より登録を受けている「みなとオアシス」を活用したSea級グルメの開発を主に行ってきました。

●2021年度活動内容

◆Sea級グルメ開発

開発では、岸和田市の港でとることが出来る魚介類などを活用したものを作りたいと思い、ネットでの調べ学習から、現地の漁協などに聞き込みに行ったり、様々な年代や性別の方にアンケートを取ったりなどして、試作案を作りました。何もない状態からの試作だったので、いかに私たちの色を出し、いかに岸和田市でとれる有名な魚から市場に出回らない魚まで活かすことが出来るのかをたくさんの時間を重ねて会議を開き試作案を出しました。



◆岸和田tv MODE出演

岸和田TV MODEに出演させていただき、岸和田港湾LIPの活動や今後の展開について紹介してきました。本来ならば、現地での出演予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のためZoomでの参加となりました。これまでの活動での写真やインスタグラムのアピールもすることができました。岸和田市長の永野様からも賛辞の言葉をいただき、さらなる活動の拡大に拍車がかかる貴重な機会となりました。



◆インスタグラムの開設・投稿

インスタグラムのアカウントを作成し、岸和田市の魅力発信に努めました。インスタグラムでは、岸和田市の情報・施設・お店や、LIP参加者による現地視察の様子を紹介しています。現在では、フォロワー数が530人を突破することができ、岸和田市がより多くの人の目に留まるようになりました。これからも岸和田市の魅力を発信し続けていきます。

岸和田市の魅力
発信中!



●今後の活動について

岸和田市は来年で市制施行100周年、岸和田港振興協会70周年を迎えられます。そこで、私たち学生がこの記念すべき行事を盛り上げるべく、この岸和田港湾LIPとして、港湾エリアの魅力を伝えられるような企画案を考えています。また、新型コロナウイルス感染拡大の中で感染予防に努めながらも、岸和田市に目を引くことができるような方法を模索しようと考えています。Sea級グルメの開発に関しては、試作案を基に、大阪府鰯巾着網漁業協会さん、並びに「きんちゃく家」さんと共同で試作を重ねて、100周年イベントで出店される屋台などのブースをお貸しいただき販売の実施を行っていこうと考えています。

@kouwanlip